
XPC ユーザーガイド

対象ソフト: SX48P2 E

Shuttle®

XPC インストールガイド

Copyright

©2008 by Shuttle® Inc. All Rights Reserved.

本出版物のいかなる部分も、Shuttle® Inc. の書面による事前の許可なしには、いかなる条件下でも、また電子的、機械的、磁氣的、光学的、化学的、写真複写など、その他のいかなる手段によっても、コピー、転写、検索システムへの記憶、いかなる言語への翻訳、または伝送を行うことができません。

このマニュアルで使用されているその他のブランドと製品名は識別目的のためだけのもので、それぞれの所有者のトレードマークです。

免責条項

Shuttle® Inc.はこの製品の実行または使用に起因する付随的損害または間接的損害に責任を負いません。

Shuttle® Inc. は、このマニュアルの内容に関していっさいの表明または保証をいたしません。このマニュアルに含まれる情報の信頼性については万全を期してチェックされていますが、内容の正確さについてはいっさい保証いたしません。製品の継続的な向上を実現するために、Shuttle® Inc. では改訂や変更を事前に通知する義務を負わずに、いつでもマニュアルを改訂したり、本製品の仕様を変更する権利を留保します。このマニュアルに含まれる情報は、顧客による一般的使用のために提供されています。

このデバイスは FCC 基準パート 15 に準拠しています。操作は次の 2 つの条件に規制されます：

1. 電波障害を起こさないこと、
2. 誤動作の原因となる電波障害を含む、受信されたすべてのバックグラウンドの電波障害に対して正常に動作すること。

商標

Shuttle は Shuttle Inc. の登録商標です。

Intel と Pentium は Intel Corporation の登録商標です。

PS/2 は IBM Corporation の登録商標です。

AWARD は Award Software Inc. の登録商標です。

Microsoft と Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。

一般的通知

このマニュアルで使用されているその他のブランドと製品名は識別目的のためだけのもので、それぞれの所有者のトレードマークです。

安全に関する情報

Shuttle XPC. をセットアップする前に、次の注意事項をお読みください。

注意

バッテリーを間違えてセットすると、このコンピュータが損傷する原因となります。交換する際は、Shuttle が推奨するバッテリーと同じものまたは同等のものだけを使用するようにしてください。使用済みバッテリーは、メーカーの指示に従って処分してください。

レーザー準拠声明

このサーバーの光ディスクドライブは、レーザー製品です。ドライブの分類レベルは、ドライブに貼ってあります。

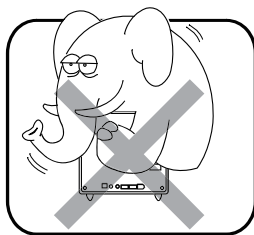
クラス 1 レーザー製品

注意：開けると目に見えないレーザー照射にさらされます。

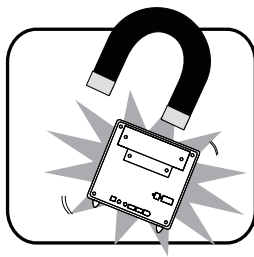
ビームへの暴露を避けてください。

インストールに関する通知

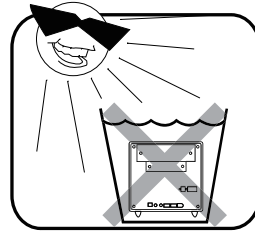
この装置を重量物の下、または不安定な場所に設置しないでください。



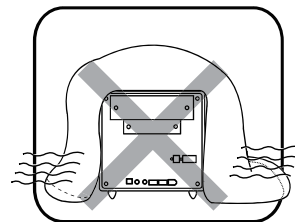
この装置を磁場の周囲で使用したり磁場にさらしたりしないでください。磁気妨害により、装置のパフォーマンスに影響がおよぶ可能性があります。



この装置を強い直射日光、高湿度または濡れた状態にさらさないでください。



この装置の換気孔を塞いだり、空気の流れを妨げたりしないでください。



目次

1 機能の紹介	1
1.1 XPCの紹介	1
1.2 モデルの仕様	2
1.3 XPCの外観	3
1.3.1 XPC正面	3
1.3.2 XPC背面	3
1.4 アクセサリ	4
1.5 XPCメインボード	5
1.5.1 SX48P2 Eメインボード図	5
1.5.2 ジャンパ設定	6
フロントパネルヘッダ	6
CIRヘッダ	6
拡張 USB ヘッダ	7
PS/2 キーボードとマウスヘッダ	7
AUX-IN ヘッダ	7
ファンコネクタ	8
GPIOヘッダ	8
BIOSヘッダ	8
2 XPCインストールガイド	9
2.1 インストール	9
2.1.1 カバーの取り外し	9
2.1.2 ラックの取り外し	9
2.2 CPU と ICE の取り付け	10
2.2.1 ICEモジュールの取り外し	10
2.2.2 CPUの取り付け	10
2.2.3 ICEモジュールの取り付け	11
2.3 メモリモジュールの取り付け	12
2.4 周辺機器の取り付け	13
2.4.1 ラックの取り付け	13
2.4.2 カードリーダーの取り付け	13

2.4.3 IDE HDD の取り付け.....	14
2.4.4 光学ドライブの取り付け	15
2.4.5 シリアル ATA HDD をさらに取り付ける.....	16
2.5 アクセサリの取り付け	16
2.5.1 PCI Express x16 カードの取り付け	16
2.5.2 ミニ PCIe カードの取り付け.....	18
2.6 最後の仕上げ	19
2.6.1 シャーシカバーを閉じる	19
2.6.2 前足の取り付け	19
2.6.3 完了	19
2.7 XPC アクセサリ	20
2.8 技術サポート	20
2.9 技術メモ: クリア CMOS ボタン.....	20

1 機能の紹介

■ 1.1 XPC の紹介

Shuttle XPC は、最初は、高性能スモールフォームファクタ (SFF) コンピュータでした。2001 年に最初のモデルが発売されてから、XPC は世界でもっともよく売れた SFF コンピュータブランドとなりました。

それぞれの Shuttle XPC は「ベアボーン」コンピュータ (シャーシ、電源装置およびマザーボード) として販売されました。ユーザーは自分でプロセッサ、メモリ、ドライブおよび、必要に応じて、拡張カードを追加する必要がありました。XPC は組立が簡単で、エンドユーザーが直接設定できるように設計されていました。消費者は設定済みの、箱を開けてすぐ使用できる XPC の購入も選択できます。Shuttle 公認の付加価値再販業者のリストは www.shuttle.com でご覧になれます。

Shuttle XPC の評判は小型、高性能およびコンポーネントのほぼ普遍的な互換性の独特な組み合わせの賜です。しかし、普通のデスクトップコンピュータとは異なり、Shuttle XPC は完璧なシステムとして設計されていました。

XPC のコンセプトは、以下のように要約できます。

高性能、業界標準のコンポーネント、考えられる限りの最小サイズを使用する一方で、コンポーネントの互換性とシステム拡張性を維持し、品質に焦点を合わせています (品質の創出、素材およびインダストリアルデザインへの取り組み)。

上記要件を満たすために、Shuttle は統合冷却エンジン (ICE) を含め多くの新技術を作成し特許を取得していますが、これにより個人のコンピュータ体験を拡大し向上する一方で熱、騒音およびスペースを少なくしています。

Shuttle XPCをお選びいただきましてありがとうございます。

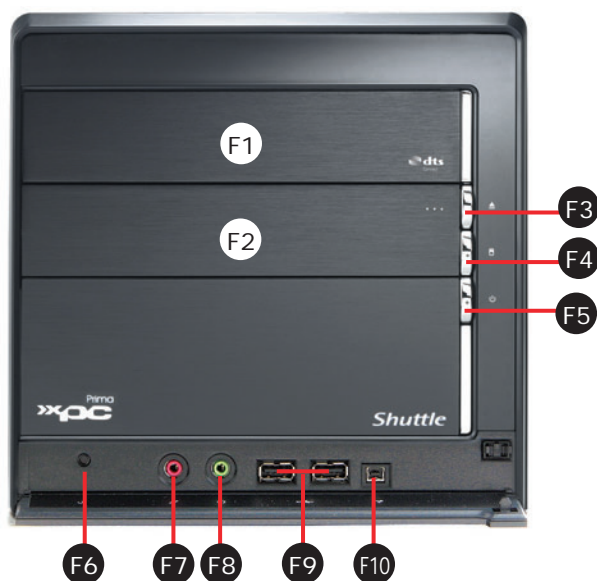
■ 1.2 モデルの仕様

フォームファクタ	● Shuttle フォームファクタ	
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> ● デュアルコアおよびシングルコア CPU に対して 1600/1333/1066/800 MHz FSB をサポート ● LGA775, Intel® Core™2 Quad /Core™2 Extreme /Core™2 Duo /Pentium® D 	
チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ● ノースブリッジ: Intel® X48 チップセット ● サウスブリッジ: ICH9-R 	
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 4x デュアルチャンネルバッファ無し非ECC DDR2 667/800MHz DIMM スロット ● DIMM は最大 8GB のシステムメモリをサポート 	
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ● Realtek ALC888DD ● アナログ 7.1 チャンネル出力をサポート ● デジタル S/PDIF インをサポート ● Dolby® Digital Live! および DTS™ をサポート 	
イーサネット	<ul style="list-style-type: none"> ● Marvell 88E8056 (PCI-E インターフェイス) ● IEEE 802.3u 100Base-T 準拠 ● ウェイクワ LAN のサポート ● 10Mb/秒、100Mb/秒および 1000Mb/秒の操作 	
IEEE1394 (FireWire)	<ul style="list-style-type: none"> ● TI TSB43AB22A、1394 OHCI 仕様リビジョン 1.0 に準拠 ● 400Mb/秒、200Mb/秒、100Mb/秒の転送速度 	
ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> ● サウスブリッジ <ul style="list-style-type: none"> (1) フロッピーコネクタ (2) 背面パネルの eSATA コネクタ (3) オンボード SATA 3.0Gb/秒コネクタ ● Jmicron (1) UltraDMA 100 IDE チャンネルコネクタ ● NCQ サポート 	
オンボードコネク	(1) PS/2 キーボードとマウスヘッダ (4) ファンコネクタ (2) フロントパネルヘッダ (4) SATA コネクタ (1) BIOS ヘッダ (1) ミニ PCIE コネクタ X1 (1) SPI_FLASH ヘッダ	(1) ATA100 IDEコネクタ (2) 電源コネクタ (1) AUX_IN ヘッダ (1) GPIO ヘッダ (2) 2x5 USB 2.0 ヘッダ (2) PCI-E X16 (1) CIR ヘッダ
電源	<ul style="list-style-type: none"> ● 入力: 100/240V、80 PLUS のサポート ● 出力: 450W 	
シャーシ	<ul style="list-style-type: none"> ● P2、寸法: 325(長さ) x 220(幅) x 210(高さ) mm ● ベイ: (2) 3.5" ベイ (内部) (1) 5.25" ベイ 	

■ 1.3 XPC の外観

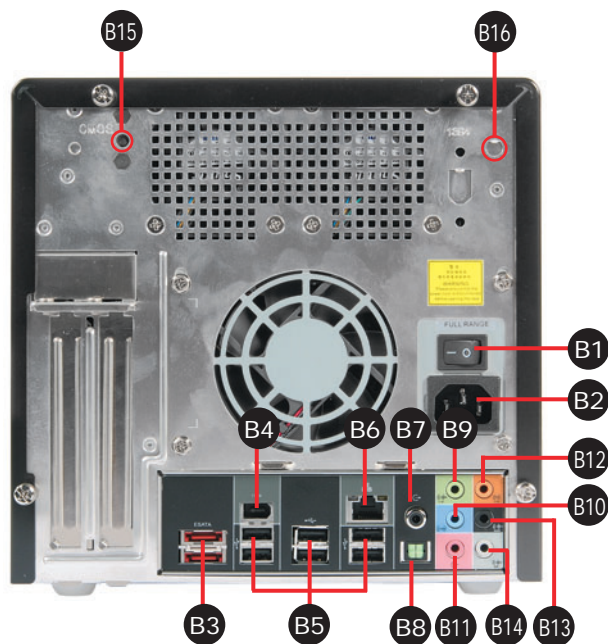
! Shuttle では、さまざまなオプションを搭載した XPC モデルを数多く用意しています。以下の図を参照して、新しく XPC に組み込んだ機能に習熟してください。

■ 1.3.1 XPC 正面



- F1. 5.25" ベイ
- F2. 3.5" ベイ
- F3. イジェクトボタン
- F4. HDD LED
- F5. 電源スイッチと LED
- F6. リセットボタン
- F7. マイク
- F8. ヘッドフォン
- F9. USB ポート
- F10. ミニ IEEE1394 ポート

■ 1.3.2 XPC 背面

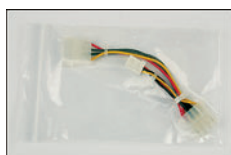


- B1. AC 電源スイッチ
- B2. AC 電源ソケット
- B3. 外部シリアル ATA ポート
- B4. IEEE1394 ポート
- B5. USB ポート
- B6. LAN ポート
- B7. SPDIF アウト (同軸)
- B8. SPDIF アウト (光学)
- B9. フロントアウト (L/R)
- B10. ラインインポート
- B11. マイクイン
- B12. センター/低音
- B13. サラウンド背面 (L/R)
- B14. サイドサラウンド (L/R)
- B15. クリア CMOS ボタン
- B16. ワイヤレス LAN パーフォレーション

■ 1.4 アクセサリ

1. 電源コード (1)

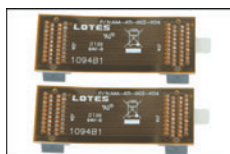
電源延長ケーブル (1)



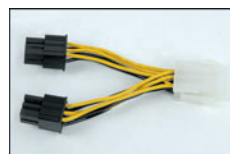
2. ICE ヒートパイプ (1)



3. クロスファイヤーブリッジ (2)



4. VGA 電源コード (1)



5. ケーブルタイ (2)、ケーブルクリップ (1)、 粘着テープ (2)、ねじ



6. シリアル ATA ケーブル (1) FDD ケーブル (1)



7. 正面足 (2)



8. ヒートシンク用接着剤 (1)



9. マザーボード DVD ドライバ (1)



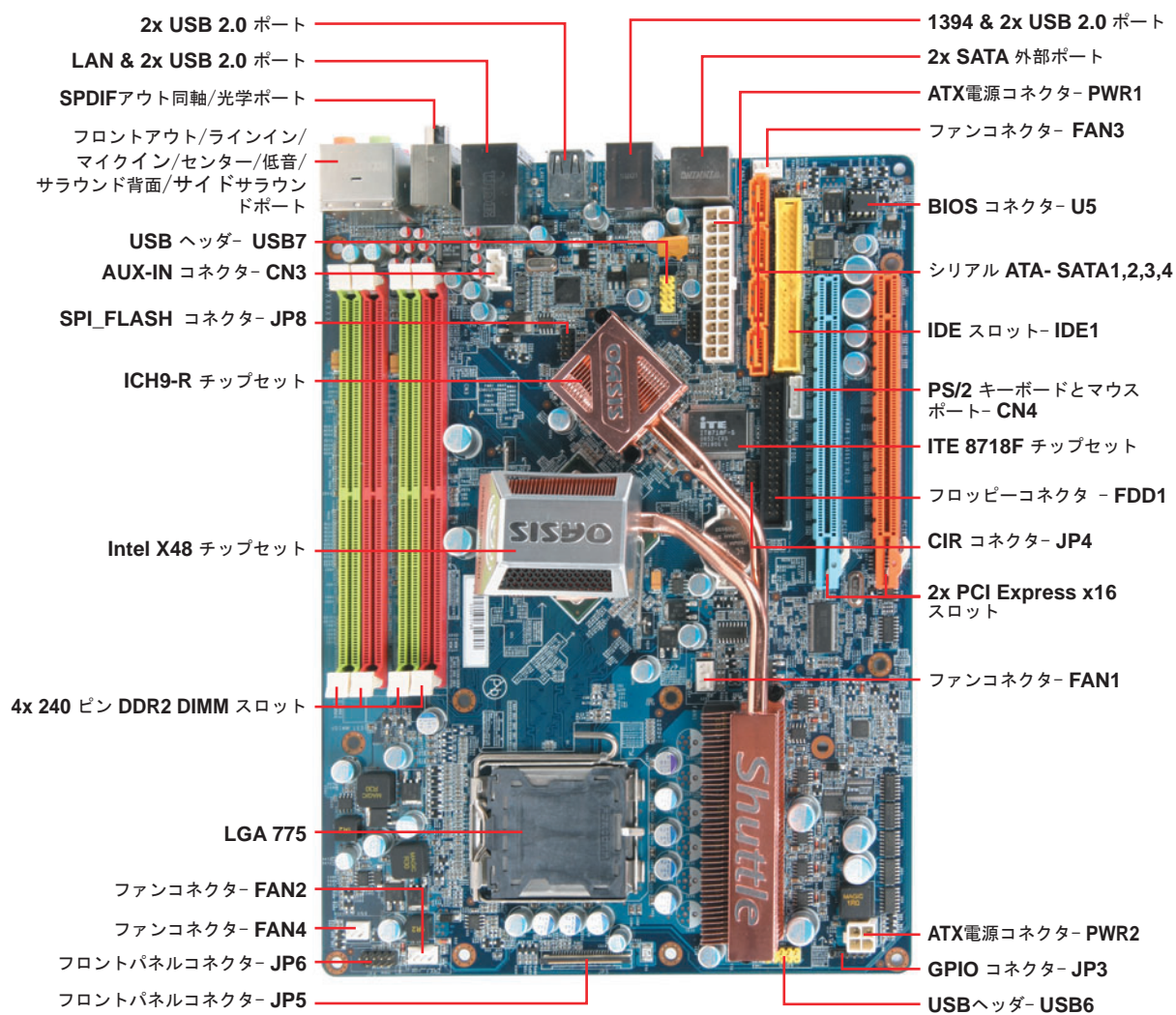
10. XPC インストールガイド (1)



バンドルされるアクセサリは仕様と異なることがあります。付属品が足りない場合、最寄りの正規 Shuttle 代理店にご連絡ください。

■ 1.5 XPC メインボード

■ 1.5.1 SX48P2 E メインボード図



■ 1.5.2 ジャンパ設定

フロントパネルヘッダ

ヘッダ JP5 は、正面ドーターボードに操作状態信号を送信するために使用できます。これは、マザーボードを正面のドーターボードにも接続する 50 ピンストリームラインヘッダへの代替ヘッダです。ヘッダ JP6 は、フロントパネルまたは背面パネルに取り付けたフロントパネルコネクタにケーブルを接続するために使用されます。

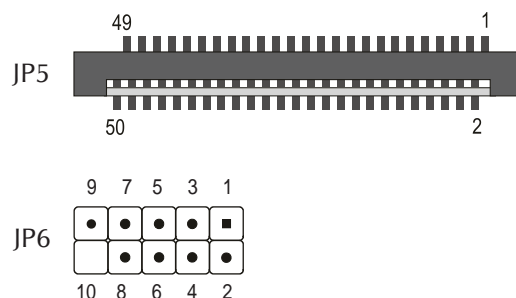
フロントパネルには、ハードドライブアクティビティライト、リセットボタン、オン/オフボタン、コンピュータ電源オンライト、USB コネクタ、1394 コネクタ、オーディオヘッダが設置されています。

ピン割り当て (JP5) :

1 = USBPWR	2 = USBPWR	3 = USBPWR	4 = USBPWR	5 = USBPWR
6 = USBPWR	7 = USBPWR	8 = USBPWR	9 = USB A +	10 = USB A -
11 = USBGND	12 = USBGND	13 = USB B +	14 = USB B -	15 = USBGND
16 = USBGND	17 = TPA +	18 = TPA -	19 = 1394GD	20 = 1394GD
21 = TPB +	22 = TPB -	23 = 1394GD	24 = 1394GD	25 = FMIC
26 = MIC_PWR	27 = SNESE0	28 = AUDIOGD	29 = LINE_IL	30 = AUDIOGD
31 = LINE_IR	32 = SENSE1	33 = AUDIOGD	34 = AUDIOGD	35 = LINE_OR
36 = LINE_FR	37 = AUDIOGD	38 = AUDIOGD	39 = LINE_OL	40 = LINE_FL
41 = AUDIOGD	42 = AUDIOGD	43 = HDPWR	44 = GLEDA	45 = HDLED
46 = GLEDB	47 = RST_SW	48 = PW_SW	49 = VCC	50 = VCC

ピン割り当て (JP6) :

1 = HDLED PWR	2 = GRNLEDA
3 = -HD_LED	4 = GRNLEDB
5 = BT_SEL	6 = -PWRSW
7 = GND	8 = GND
9 = NC	10 = KEY

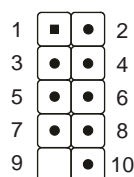


CIR ヘッダ

ヘッダ JP4 は、特殊デバイスに接続するために使用できます。

ピン割り当て (JP4) :

1 = PIN26	2 = 5V_DUAL
3 = PIN30_CIRTX	4 = PIN85_CIRRX
5 = PIN27	6 = PIN20
7 = PIN21	8 = PIN23
9 = KEY	10 = GND

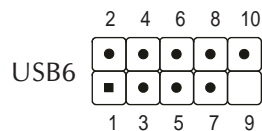


✂ 拡張 USB ヘッダ

これらのヘッダは、補助 USB デバイスをメインボードに接続するために使用されます。ヘッダは指向性であるため、USB ケーブルは一方向にしか接続できません。

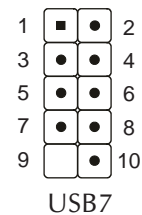
ピン割り当て (USB6) :

1 = USBPWR4
2 = USBPWR4
3 = USBP4N
4 = USBP11_N
5 = USBP4P
6 = USBP11_P
7 = GND
8 = GND
9 = Key
10 = N/C



ピン割り当て (USB7) :

1 = USBPWR7
2 = USBPWR7
3 = USBP10N
4 = USBP1N
5 = USBP10P
6 = USBP1P
7 = GND
8 = GND
9 = Key
10 = N/C

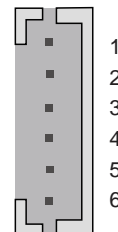


✂ PS/2 キーボードとマウスヘッダ

ヘッダ CN4 は、PS/2 キーボードやマウスデバイスを接続するために使用できます。

ピン割り当て (JP4) :

1 = KDAT
2 = KCLK
3 = 5V_DUAL
4 = GND
5 = MDAT
6 = MCLK

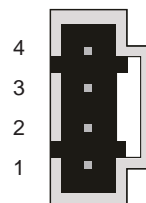


✂ AUX-IN ヘッダ

CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを取り付けている場合、ドライブのオーディオケーブルをオンボードのサウンドシステムに接続できます。マザーボードで、4ピン Aux-In ヘッダを探し、ケーブルをこのヘッダに接続します。

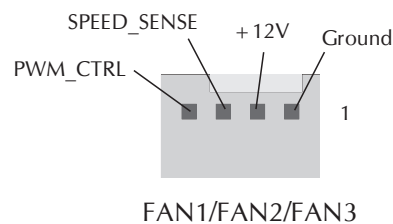
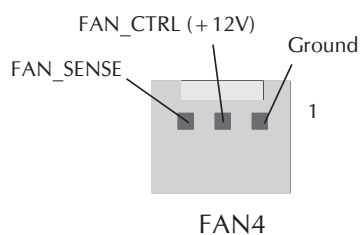
ピン割り当て (CN3) :

1 = AUX-IN - Left
2 = Ground
3 = Ground
4 = AUX-IN - Right



✂ ファンコネクタ

メインボードではオンボード 12V 冷却ファン電源コネクタを装備して、CPU、シャーシまたはチップセット冷却ファンをサポートしています。



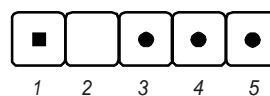
! ケーブル配線とプラグのタイプは、ファンメーカーによって異なることがあります。

✂ GPIO ヘッダ

GPIO は 3 つのアプリケーション定義可能 GPIO LED をサポートします。

ピン割り当て (JP3) :

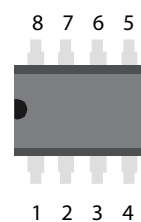
- 1 = VCC
- 2 = KEY
- 3 = VCC
- 4 = GPIO23
- 5 = GPIO22



✂ BIOS ヘッダ

ピン割り当て (U5) :

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 = SPI_CS0- | 2 = SPI_MISO |
| 3 = SPI_WP- | 4 = GND |
| 5 = SPI_MOSI | 6 = SPI_CLK |
| 7 = SPI_HOLD- | 8 = SPI_VDD |



2 XPC インストールガイド

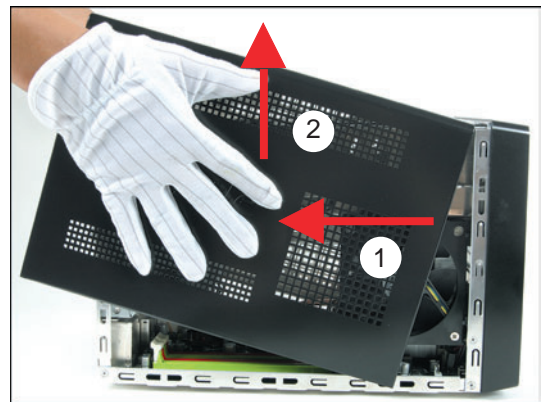
■ 2.1 インストール



安全の理由で、ケースを開ける前に電源コードが取り外されていることを確認してください。

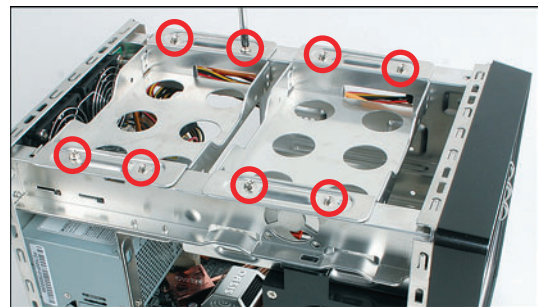
■ 2.1.1 カバーの取り外し

1. シャーシカバーの 4 本の蝶ねじを回して外します。
2. カバーを後方および上方にスライドさせます。

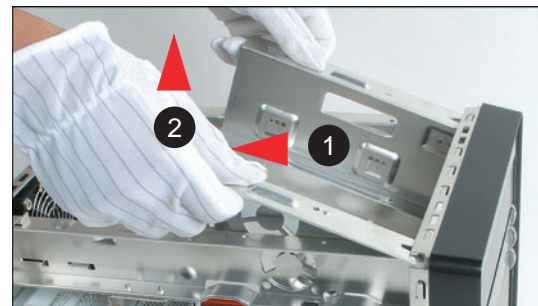


■ 2.1.2 ラックの取り外し

1. シリアル ATA HDD ラックマウントのねじを外します。

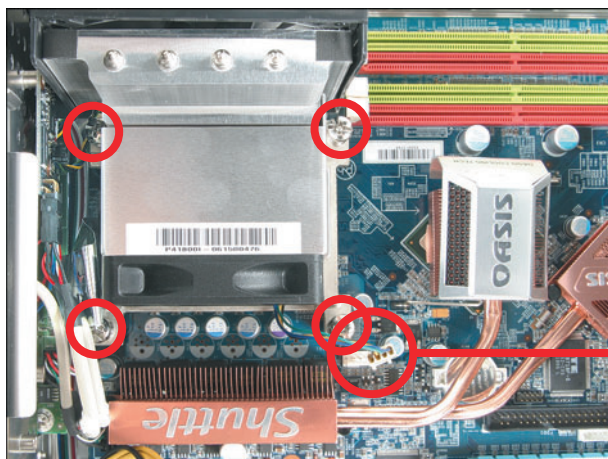


2. ラックを取り外します。

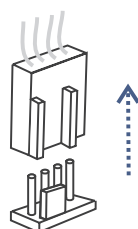


■ 2.2 CPU と ICE の取り付け

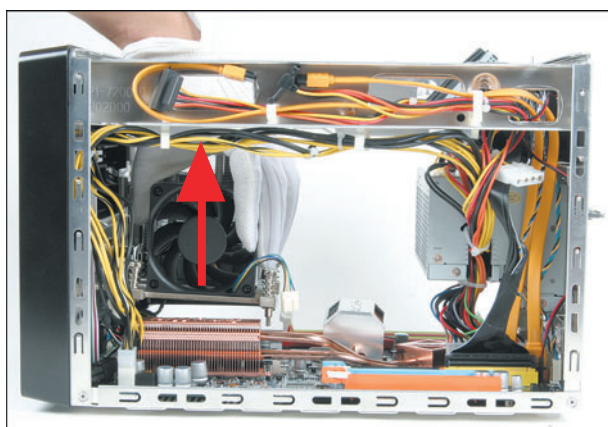
■ 2.2.1 ICE モジュールの取り外し



1. 4 つの ICE モジュールアタッチメントねじを外し、ファンコネクタを抜き取ります。



ファンコネクタ



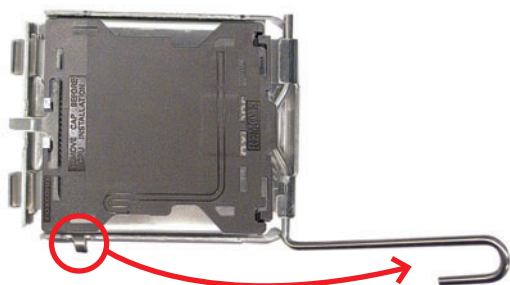
2. シャーシから ICE モジュールを取り外し、脇に置きます。

■ 2.2.2 CPU の取り付け

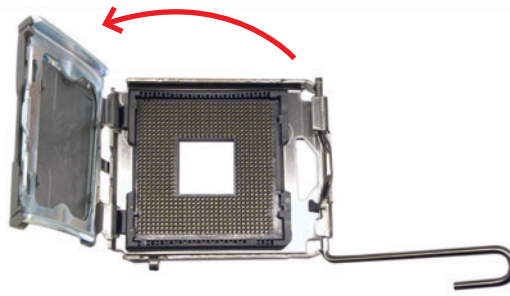


この 775 ピンソケットは壊れやすく、簡単に損傷します。CPU を取り付けているときは特に注意を払い、CPU を取り外したり交換する回数を制限してください。

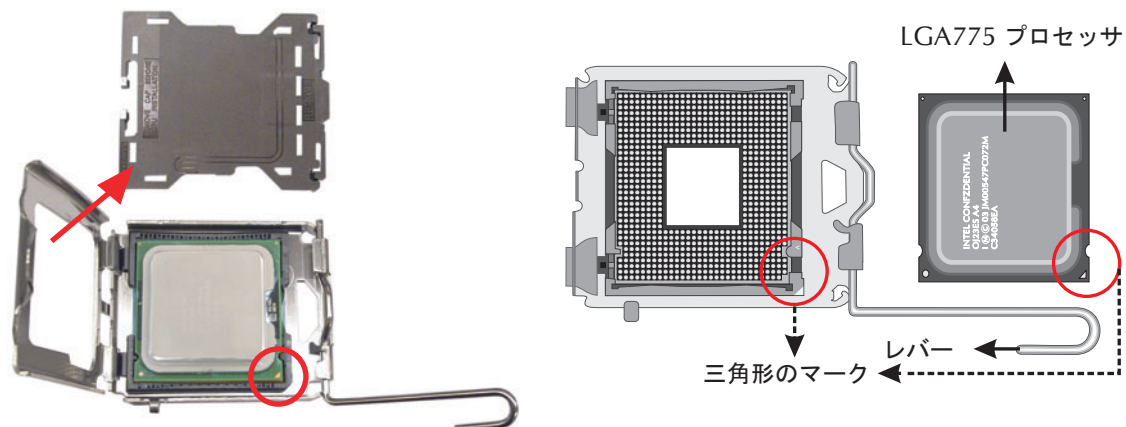
1. まずソケットレバーのロックを解除し引き上げます



2. CPU ソケットの金属製ロードプレートを持ち上げます。



3. CPU とソケットを正しい位置に置き、CPU 隅の黄色い三角形をソケットの三角形に合わせます。CPU が完全に水平になっていることを確認し、CPU をソケットに挿入します。
4. 保護ソケットカバーを取り外します。
ロードプレートを閉じ、CPU ソケットレバーを下げて所定の位置にロックします。



! CPU の方向に注意してください。CPU を無理にソケットに押し込もうとすると、ソケットのピンが曲がり CPU が損傷する原因となります。

5. 表面に熱ペーストを均等に塗ります。

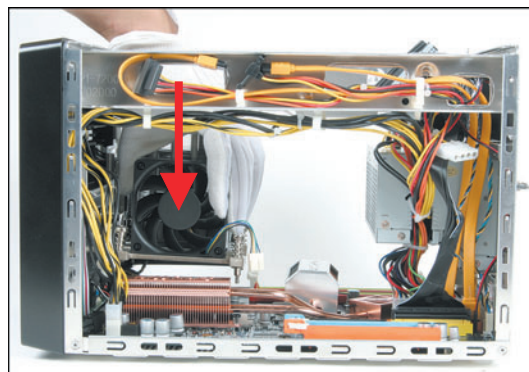
感熱糊の塗布領域

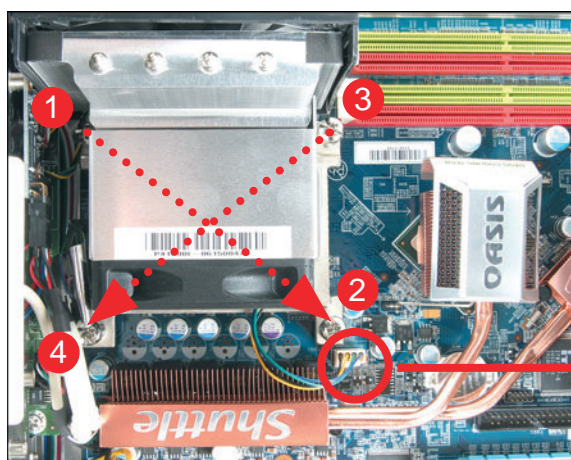


! 感熱糊を付けすぎないでください。

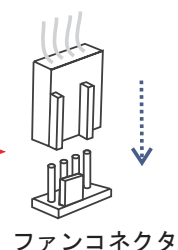
■ 2.2.3 ICE モジュールの取り付け

1. CPU ダイの上部に ICEモジュールを取り付け、マザーボードの穴にネジを合わせます。





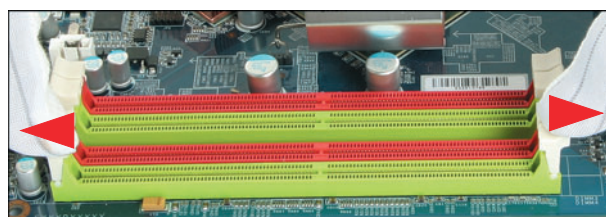
2. ICE モジュールをマザーボードにネジで取り付けます。各ねじを締め付けながら、対角部に押しつけてください。
3. ファンコネクタを結合します。



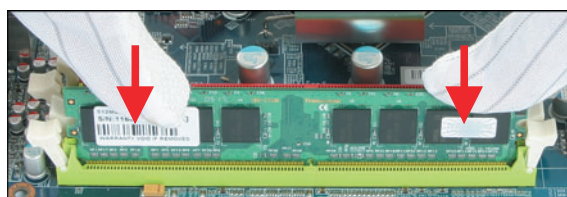
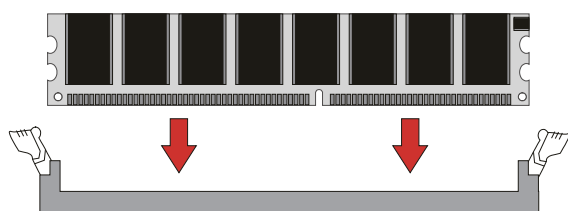
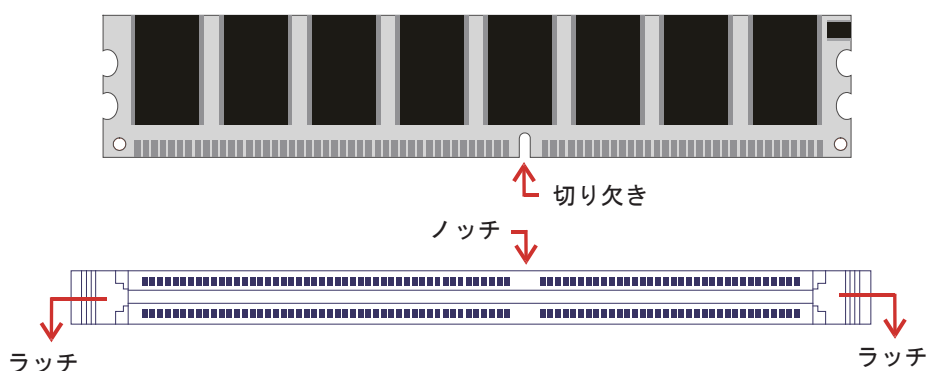
■ 2.3 メモリモジュールの取り付け

メモリモジュールを DIMM1/DIMM2/DIMM3/DIMM4 に取り付けます。

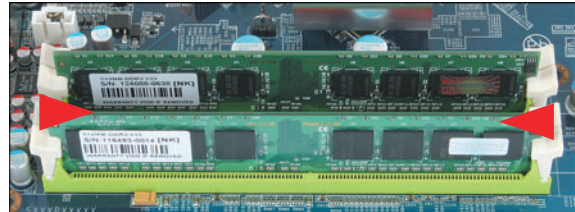
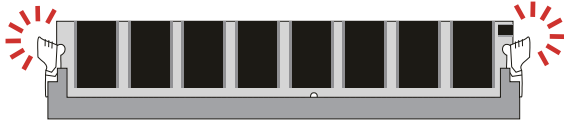
1. DIMM ラッチを解除します。



2. メモリモジュールの切り欠きを DIMM スロットノッチに合わせます。
メモリモジュールを DIMM スロットにスライドさせてはめ込みます。



3. ラッチと閉じており、メモリモジュールがしっかり取り付けられていることをチェックします。



! 必要に応じて、追加のメモリモジュールを同じ手順で取り付けます。

■ 2.4 周辺機器の取り付け

■ 2.4.1 ラックの取り付け

1. HDD/カードリーダーラックにセットし、側面からネジで固定します。
2. シャーシにラックをセットします。

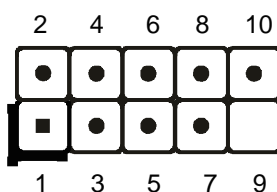


! それぞれの側でネジを締め付けるのを忘れないでください。



■ 2.4.2 カードリーダーの取り付け

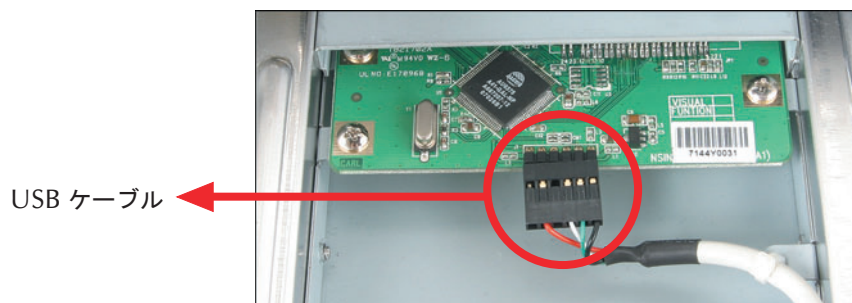
1. カードリーダーを取り付けている場合、カードリーダーの USB ケーブルをマザーボードに配置された USB ヘッダに差し込みます。



! 赤いラインを残してください (最初または 2 番目のピン)。



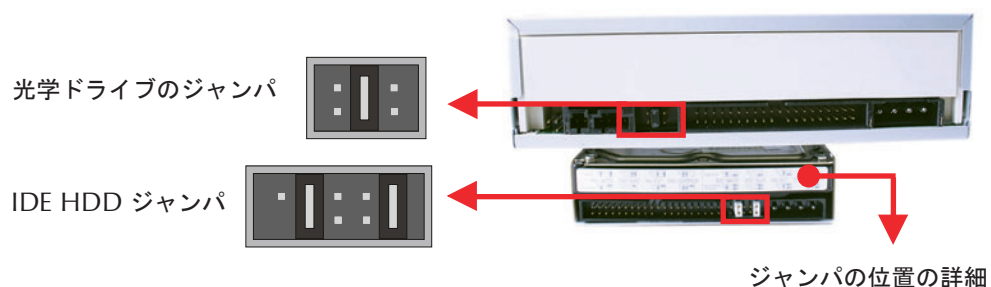
2. USB ケーブルをカードリーダーにある USB ヘッダに接続します。



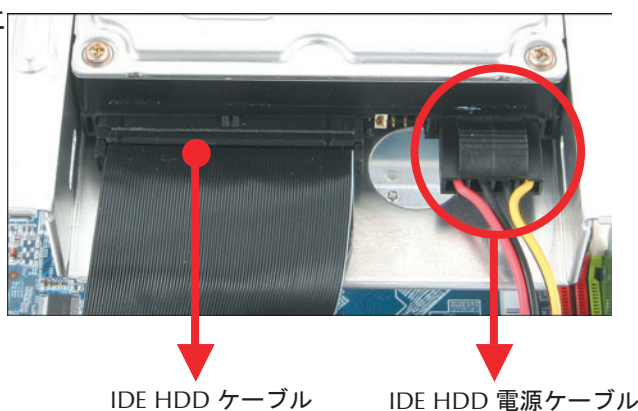
⚠ USB ケーブルの赤いラインは、USB ヘッダの最初のピンに合わせる必要があります。

■ 2.4.3 IDE HDD の取り付け

1. ジャンパ設定。IDE HDD を使用している場合、HDD のジャンパをマスターに、光学ドライブのジャンパをスレーブに設定する必要があります。ジャンパの位置に関する詳細については、周辺機器を参照してください。

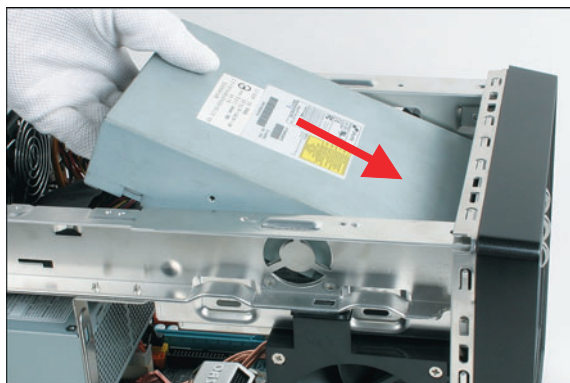


2. IDEケーブルと電源ケーブルを HDD に接続します。



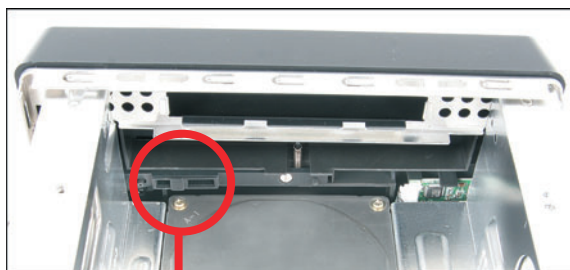
■ 2.4.4 光学ドライブの取り付け

1. 光学ドライブをシャーシにスライドさせてはめ込みます。



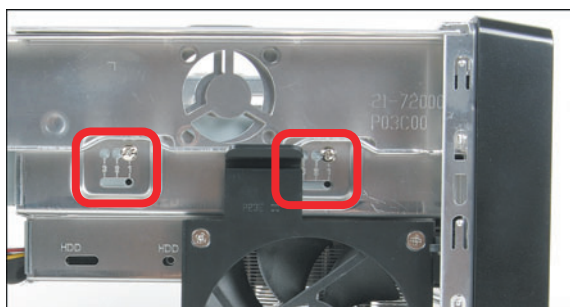
2. 隠されたドライブドアの内部をのぞき込みながら、ドライブのイジェクトボタンをこの XPC のドライブイジェクトメカニズムの位置に合わせます。

内部コントロールロッドが光学ドライブのイジェクトボタンの位置に合うように調整します。

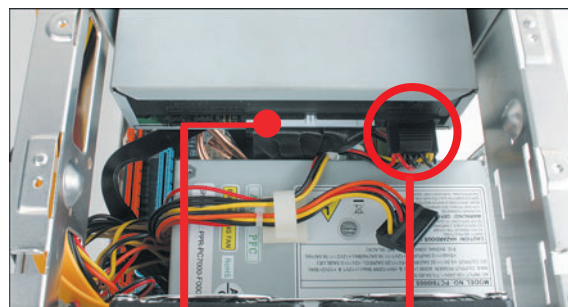


コントロールロッド

3. 4本のサイドネジを締め付けます。



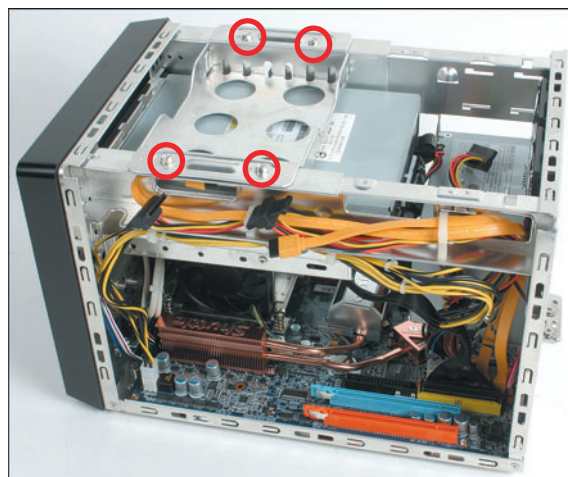
4. 光学ドライブケーブルと電源ケーブルを光学ドライブに差し込みます。



光学ドライブ

ケーブル 光学ドライブ
電源ケーブル

5. それ以上シリアル ATA HDD を取り付けるつもりがない場合、シリアルラック ATA HDD をシャーシにセットしラックを再び取り付けます。

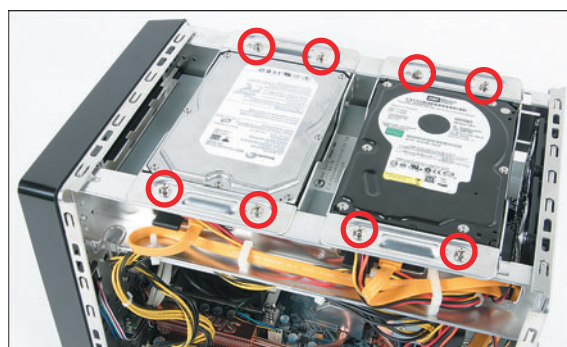


■ 2.4.5 シリアル ATA HDD をさらに取り付ける

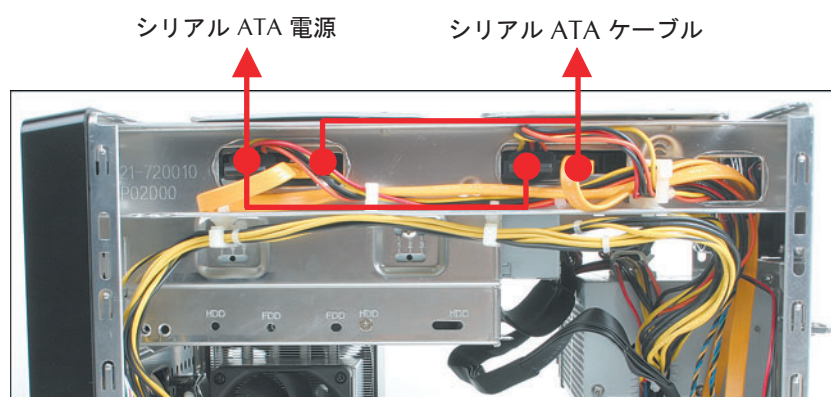
1. シリアル HDDをシリアル ATA HDD ラックにセットし、側面からネジで固定します。



2. シリアル ATA HDD ラックをシャーシにセットし、ラックを再び取り付けます。
別のシリアル ATA HDD についても同じ手順で取り付けます。



3. シリアル ATA と電源ケーブルを HDD に接続します。

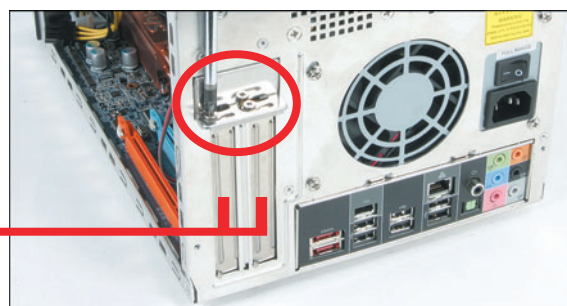


■ 2.5 アクセサリの取り付け

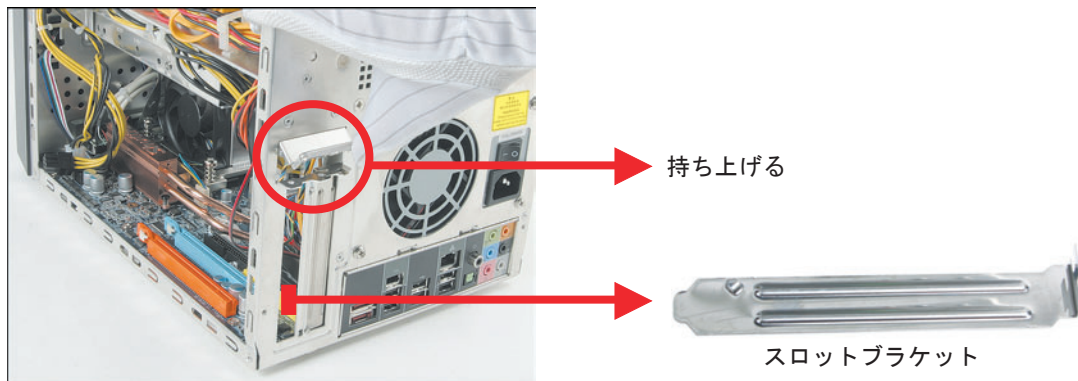
■ 2.5.1 PCI Express x16 カードの取り付け

1. PCI Express x16 カードは、取り付け手順を示すために使用されます。拡張スロットブラケットのネジを外します。

PCI Express x16 スロット



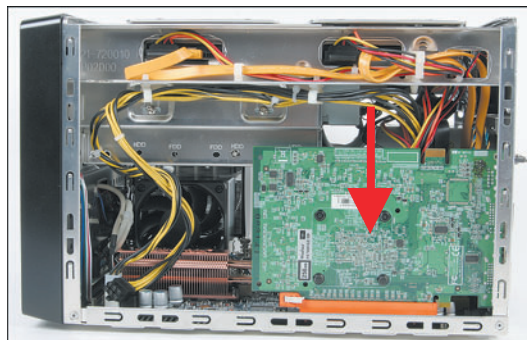
2. 背面パネルのブラケットを取り外し、脇に置きます。



⚠ ディスプレイカードの受け入れられる最大サイズは、266mmx98mmx36mm です。

3. 図に示すように、PCI Express x16 カードを PCI Express x16 スロットに取り付けます。

⚠ 必要に応じて、追加の PCI Express x16 カードを同じ手順で取り付けます。

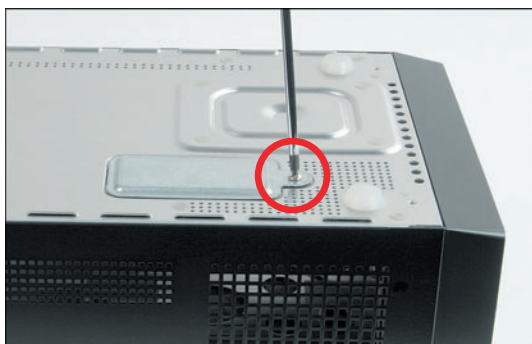


4. ブラケットを固定します。

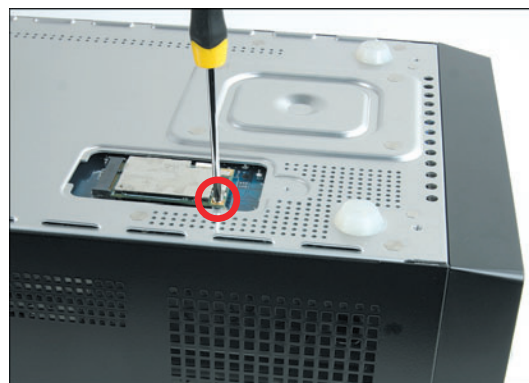


■ 2.5.2 ミニ PCIe カードの取り付け

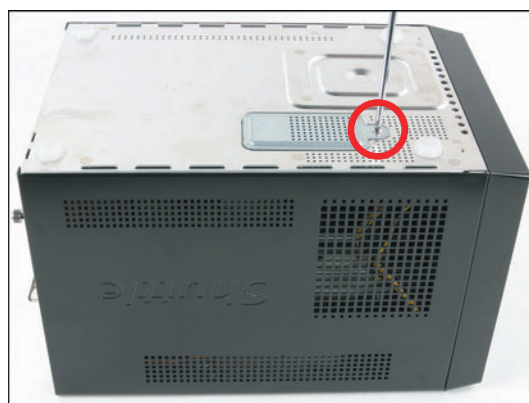
1. Mini-PCIe カードを取り付けている場合、シャーシの 1 本のねじを回して外しプレートを取り外します。
2. 図に示すように、1 本のねじを回して外します。



3. 図に示すように、Mini-PCIe カードを Mini-PCIe カードに取り付け、1 本のねじを締め付けます。



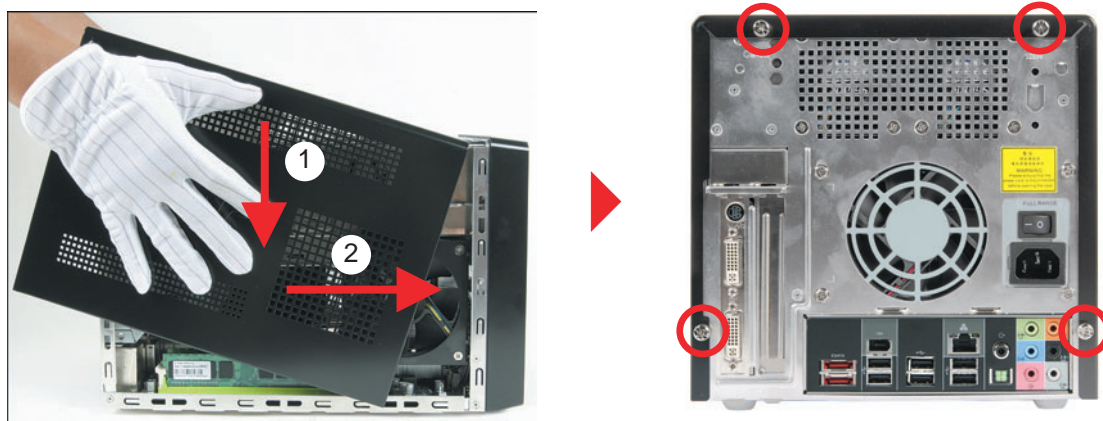
4. プレートを固定します。



■ 2.6 最後の仕上げ

■ 2.6.1 シャーシカバーを閉じる

1. カバーを元に戻し、蝶ねじを再び取り付けます。

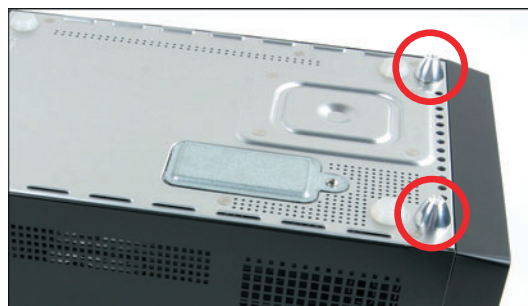


■ 2.6.2 前足の取り付け

1. アクセサリボックスから 2 本の前足を取り出します。
2. 前足をシャーシの台にねじで取り付けます。



前足



■ 2.6.3 完了



■ 2.7 XPC アクセサリ

Shuttle では、XPC に対して 25 以上のアップグレードとモデルキットを用意しています。詳細については当社の Web サイト (<http://www.shuttle.com>) にアクセスするか、最寄りの販売店にお問い合わせください。

■ 2.8 技術サポート

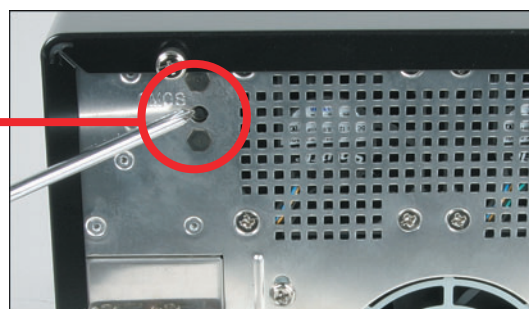
1. Shuttle Inc.
<http://global.shuttle.com/>
2. 技術サポート
<http://global.shuttle.com/support.jsp>
3. ダウンロード
<http://global.shuttle.com/download.js>
4. ベアボーンの FAQ
http://global.shuttle.com/support_faq.jsp
5. ベアボーンサポートリスト
http://global.shuttle.com/support_list.jsp

■ 2.9 技術メモ: クリア CMOS ボタン

この XPC には、使いやすい機能強化されたクリア CMOS ボタンが付属しています。このボタンにより、ユーザーは BIOS 情報を工場出荷時の設定にリセットできます。

1. XPC の電源をオフにし、電源コードを取り外します。
2. 先端の尖った物体 (たとえば、ペン先) をクリア CMOS の穴に挿入してクリア CMOS ボタンを押します。5 秒間押し続けます。
3. 電源コードを再接続し、コンピュータの電源をオンにします。

クリア CMOS ボタン



CMOS をクリアする前に電源コードを取り外してください。